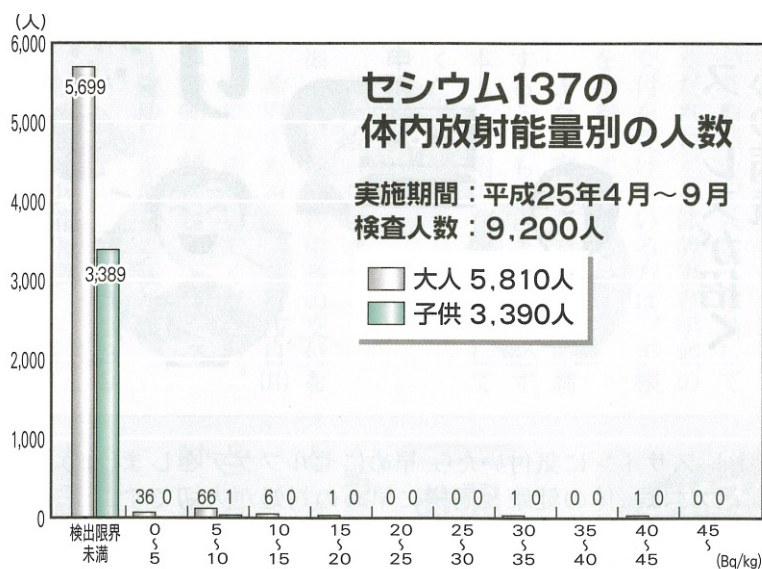
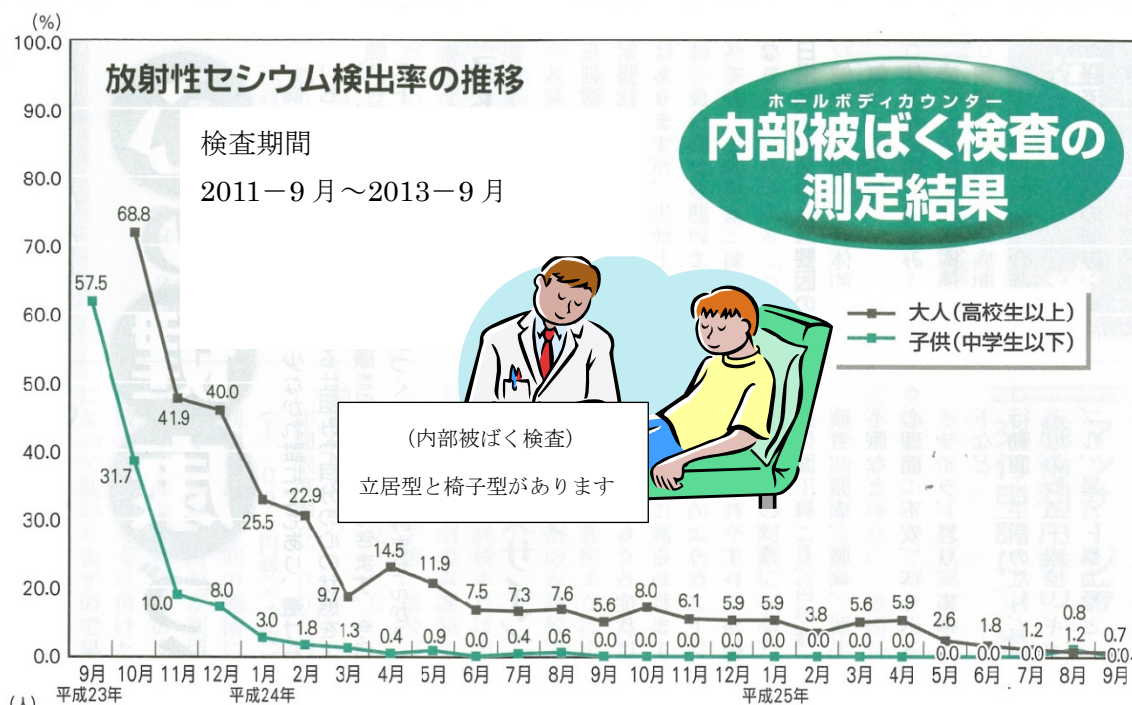


(社)南相馬除染研究所

Chief Coordinator 田中 節夫

## 安心!! 南相馬市民内部被ばく検査の測定結果から思うこと



いささか旧聞になりますが、3月の南相馬市発行の「広報みなみそうま3月号」に上記のグラフが掲載されていました。

原発災害当初は知識がない状況の中、放射能の怖さやそこに晒される環境が大変心配され、不安が高まっていたなか、被ばくには外部被ばくと内部被ばくがあり、日常生活において内部被ばくを防ぐことの工夫の大切さを勉強してきました。

南相馬では、いち早く南相馬市立病院を拠点診療所として内部被ばくを検査する体制が整備され、継続して検査が行われてきたことは市民の多くが知っていることで、今回のデーターもその成果の一環です。

今回、データーを見て原発災害当初からの時間経過とともに年々内部被ばく量が減少していることに大きな安心を得ることができたのは、私だけではないと思います。

確かに、一部の人々にとっては“絶対安全”を断言できないかもしれませんが、現実的に捉えれば、ここ南相馬市で生活していくことを選択した私たちにとって継続した内部被ばく検査体制と食品放射能検査体制を、安全安心を担保する両輪としてこれからも放射能に悩むストレスを乗り越える(低減する)指標としてデーターを見守っていくことが大切だと思っています。

さて、今回の話題ですが!!、

今回掲載されたデーターで平成 24 年 9 月から児童については、検出されないことが続いていましたが、平成 25 年 8 月に突然 1.2%となっており、「何故・・・？」と疑問がわきました。

そこで、さっそく南相馬市立病院の坪倉先生にお聞きしましたところ次のようなご返事をいただきました。

当該被験者は、もともと南相馬市在住の方で、現在は他の地域に避難されており、今回南相馬に帰宅したときに計測された方だそうです。

計測方法は、椅子型の測定装置で行われ、検出値は7.2Bq/Kgとされていますが、スペクトラムを観察するとセシウム 134 が検出されれば必ずセシウム 137 が検出されるはずなのに、その兆候が認められない。

また、セシウム 134 のエネルギーピークは二つ現れるはずが、その兆候も認められない等から、セシウム 134 のエネルギーピークに近いビスマスが検出された可能性が高いと推定されました。

これらの結果から、誤検出または計測椅子が汚染していた可能性が考えられました。

しかし当時は判定が確定していなかったため、データーとしては掲載することとしたそうです。掲載後、再検査を実施した結果では、やはり検出されなかったそうで、今は誤検出との結論が出ているとのことでした。

つまり、児童については 24 年 9 月から検出される人はいないということが分かり、大人については「広報みなみそうま 3 月号」の記事にあるように、体内に取り込んだ放射性セシウムの排泄速度の差などが影響していると考えられます。

また、追跡調査の結果、大人の検出された方の大半は、未検査の天然の食材を継続して食べている方と分かったそうです。しかし、その値は高くないそうでしたので心配ないということが結論です。やはり、**食材は食品放射能が安全とされるものを選択すること**と、未来ある児童に模範を示すためにも、**未検査の天然ものや未検査自家製食材は利用しないこと**を守ることが大切だと再認識しました。